活気あふれる同窓会

同窓新報

題字・故　上野慧賢先生

発行所
駒澤大学高等学校
同　窓　会
正会員数　22412名

東京都世田谷区上用賀1丁目
〒158-8577　TEL.3700-6131(代)
FAX.3708-7291
振替口座　0018-6-61881
http://www.komazawa.net
E-mail:dosokai@komazawa.net

平成十六年度 役員総会開催

五月二十九日（土）午後四時より母校の「会議室」において役員幹事諸氏が集まり、役員総会が開かれました。

田上会長は挨拶の中で平成十七年六月十一日（土）に開催される「同窓会創立五十五周年記念総会」開催へむけて、同窓生・役員幹事のご協力と支援を要請された。

続いて浦校長（特別顧問）より、祝辞が述べられ、その中で母校が平成二十年に開校六十周年を迎えるので、新校舎建設などを考えて行きたいと、今後の抱負を表明された。

永年勤続者の表彰が行われ四十年の京滝隆司（政経）・山田勲（政経）、三十年の日吉明廣（国語）、二十年の浜田敏明（数学）・貫井洋（英語）、十年の長谷川早苗（家庭）の各教諭に記念品が贈呈された。

議長に浜田好晃氏（八期）を選出し

平成十五年度事業報告
平成十五年度決算報告
平成十五年度会計監査報告
平成十六年度事業計画
平成十六年度予算案

その他の審議に入り承認された。

その後、懇親会に移り、同窓会創立五十五周年記念総会での成功を祈りつつ役員総会を終了した。

同窓会・創立五十五周年 記念総会開催

「行学一如」の額のもとで

同窓会は平成十七年に創立五十五周年を迎えます。昭和二十三年に開校し、以来建学の精神「行学一如」額のもとで学んだ卒業生の人数も二万二千人余を数えます。

同窓会では創立五十五周年を祝い平成十七年の六月十一日（土）午後四時より、母校・各施設で「同窓会創立五十五周年記念総会」を開催すべく準備を進めております。

「行学一如」の建学の精神のもとで学んだ、一期生から五十五期生までが、この機会に是非「心」の故郷の母校に参集しようではありませんか。

祝・全国大会 出場

第52回 全日本吹奏楽コンクール
高校の部

日　時　10月24日（日）

場　所　杉並区・普門館

課題曲　北瓜道夫 作曲
「祈りの旅」

自由曲　レスピーギ 作曲
「ローマの祭り」

平成１５年度
駒澤大学高等学校同窓会収支計算書

《収入の部》　（金額単位：円）

項目	予算額	決算額	備考
入会金収入	7,200,000	7,170,000	15,000×478名
年会費収入	1,460,000	1,431,000	2,000×478名 +郵便振込 ¥475,000(157名)
名簿関係費	0	9,600	郵便振込分 9,600(2冊)
50年記念誌収入	0	0	
寄付金	30,000	6,000	郵便振込分 6,000
雑収入	10,000	1,002,661	受取利息 440 14年度未払分 2,221 城南 1,000,000
収入小計	8,700,000	9,619,261	
前年度繰越金	9,371,332	9,371,332	
収入合計	18,071,332	18,990,593	

《支出の部》

項目	予算額	決算額	備考
事務費	400,000	361,809	パソコン関係 年賀状代・印刷代 郵便振込手数料
通信費	200,000	84,320	電話使用料 切手代
会議費	700,000	553,890	役員総会 役員会 常任幹事会
慶弔費	500,000	514,232	永年勤続記念品代 退職慰労金 香典・弔花代
同窓新報発行費	7,000,000	5,636,894	発行・印刷代・発送代(37,38号) 編集委員会
クラス会助成費	400,000	210,000	クラス会14件 OB会7件
クラブ助成費	1,000,000	30,000	サッカー部
名簿関係費	800,000	251,160	54期生名簿作成
文化活動費	1,000,000	563,167	文化公演会関係
創立55周年準備積立金	500,000	500,000	城南信用金庫積立(13年度より)別紙参照
創立55周年事業準備費	200,000	0	
予備費	1,000,000	1,200,000	防犯カメラ設置補助 吹奏楽部金賞受賞祝賀金
支出小計	13,700,000	9,905,472	
次年度繰越金	4,371,332	9,085,121 ※	
支出合計	18,071,332	18,990,593	

（※ 内訳）

三井住友銀行	桜新町支店	（普通）	4,757,405円
三井住友銀行	桜新町支店	（定期）	0円
三井住友銀行	桜新町支店〈会館〉	（普通）	173,254円
東京三菱銀行	世田谷支店	（普通）	0円
城南信用金庫	用賀支店	（普通）	337,932円
城南信用金庫	用賀支店	（定期）	0円
世田谷用賀郵便局		（振替）	996,530円
世田谷用賀郵便局		（定期）	2,820,000円

合計　9,085,121円

平成１５年度駒澤大学高等学校同窓会収支計算書について
監査を行った結果、妥当且つ適正であることを証明します。

会計監査　宮田利徳　吉野信行

平成１６年４月１０日

平成１６年度
駒澤大学高等学校同窓会収支予算書

《収入の部》

項目	前年度予算	本年度予算	備考
前年度繰越金	9,371,332	9,085,121	
入会金(15,000×)	7,200,000	7,110,000	(15,000×474名)
年会費	1,460,000	1,448,000	(2,000×474)+郵便振込50万(250名)
名簿関係費	0	0	
50年記念誌収入	0	0	
寄付金	30,000	30,000	
雑収入(利息)	10,000	10,000	
合計	18,071,332	17,683,121	

《支出の部》

項目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備考
事務費	400,000	361,809	500,000	
通信費	200,000	84,320	200,000	
会議費	700,000	553,890	700,000	
慶弔費	500,000	514,232	500,000	
同窓新報発行費	7,000,000	5,636,894	6,000,000	
クラス会助成費	400,000	210,000	400,000	
クラブ助成費	1,000,000	30,000	1,000,000	
名簿関係費	800,000	251,160	400,000	
文化活動費	1,000,000	563,167	1,000,000	
創立55周年準備積立金	500,000	500,000	500,000	
創立55周年事業準備費	200,000	0	200,000	
予備費	1,000,000	1,200,000	1,000,000	
小計	13,700,000	9,905,472	12,400,000	
次年度繰越金	4,371,332	9,085,121	5,283,121	
総計	18,071,332	18,990,593	17,683,121	

出演者紹介

三遊亭王楽（家入一夫）

四十六期A組・平成八年卒

駒澤大学英米文学科卒。平成十三年、三遊亭円楽に入門。平成十六年五月「二ツ目」昇進。父親は日本テレビ「笑点」などで人気の三遊亭好楽氏。

「大好きな映画関係の仕事」に就きたかったという王楽が落語に目覚めたのは大学一年のころ。父好楽の部屋にあった落語のテープ類を何気なく聞いたことからだった。「映画の面白さを落語は一人で作り上げてしまう。」自分もやりたくなって三遊亭円楽二十七番目の直系弟子として入門。

お陰様で二ツ目！
これから真打ちに向かって頑張ります。

王楽は日本舞踊（花柳流）を十年、鼓も三年間習っている。そんな下地と好環境を生かし伸びやかな感性と現代性で古典に挑むのが特徴。

「古典一筋だが二ツ目昇進になっても自分のやりたい噺をたくさんやりたい。多くの人に聞かせる機会を増やす努力をしてきたい」と今後の抱負を述べている。

母校の文化公演会で後輩達を前に大いに楽しませてくれる事だろう。

同窓生のご来場も歓迎いたします。また今後とも三遊亭王楽へのご支援を宜しくお願い致します。

駒大高祭 文化公演会

11月 2日・火曜日
10時・開会

三遊亭王楽の会

三遊亭王楽
家入一夫（46期・平成8年卒）
柳貴家小雪（太神楽）
林家ひろ木（落　語）

場所：駒澤大学高等学校・新体育館

主催：駒澤大学高等学校同窓会

同窓生のご来場もお待ちしております

大山興隆 先生を悼む

特別顧問・校長　浦　敏之

暑い今年の夏に病にふせっている方にはことさらつらさがあると思われる。そんな時、訃報が入った。元教頭の大山先生が遷化されたとのことでした。

先生は小生が高校三年生の十二月に教頭として大学より赴任された。四十二年に本校に奉職してからは様々な面でご指導いただいた。

先生は仏教者としての姿勢を貫き、本校の教育理念の実践に尽力された。学校行事に仏教色を多く取り入れた。先生は開校二十周年記念誌に「宗立学校の名に恥じない努力を積み重ねている」と記されている。

先生が如何にそのことに努力されていたか記念誌より拾ってみる。

昭和三十八年

卒業式にて三帰衣文の唱和を始める。全校生徒に聖典を配布。宗内生、千葉県安房郡長安寺で夏安居。全校生徒成道会法要後、スライド仏蹟踏査「釈尊の生涯」鑑賞。

昭和三十九年

一仏両祖像奉迎。入仏開眼供養。三年生　総持寺拝登。宗内生臘八接心。

昭和四十一年

宗務庁より仏教読本編集委員を委嘱される。

昭和四十五年

高祖降誕会に因み、仏教讃歌を作詞する。地方出身の宗門弟のために学寮「若竹寮」設置する。専修科生徒生蹟巡拝はじまる。ハワイ英語研修セミナー　ハワイ曹洞宗別院にて開催する。

昭和四十八年

高祖降誕会法要、大学にて行われ、全校生参列とする。太祖降誕会法要も同様に全校生参列とする。

その他、主なものをみても以上の通り本校の宗教教育充実のために諸行事を取り入れ、生徒の心を育むことに苦心され、今日の宗教教育の土台をつくられた。

先生の職員室での様子を思い出すに、いつもご自分の机で何やら難しそうな仏教書を読み、原稿を書かれる姿には威厳を感じたものである。昼食はいつもざるそばを食べられていた。職員室の前の庭で軽い体操をされ健康管理には気を使われていた。

先生の提唱で始められたハワイ英語研修の開催地に、昭和五十年、ハワイ曹洞宗別院住職・ハワイ開教総監として赴任された。駒澤から用賀の地に移転し、揺籃期を安定させ、今日の本校の姿を作られた先生のお力は何時までも語り続けられることでしょう。

先生のご冥福をお祈りします。

（十三期）

クラス会開催報告

平成十五年

◇五十期Ｉ組（浜田敏明 先生）

八月二十二日（金）用賀「養老の瀧」

卒業後、毎年行っているクラス会です。なかなか全員がそろうことはむずかしくてできないけれど、一番の思い出の高校時代の友達と久しぶりにあって、高校時代の話で盛り上がったり、近況報告など楽しくてあっという間に時間が過ぎてしまいました。これからも続けていきたいと思います。

報告（東田知実）

……

◇五十三期Ｄ組（宮　健二先生）

十二月二十日（土）渋谷「和民」

ひしぶりに会ったこともあり、初め静かであったが高校のときのように話がはずみあっという間にクラス会は終わってしまった。定期的に集まることがとても大切だなと思いました。楽しかったです。

報告（渡邊雄一）

……

平成十六年

◇三十一期Ｋ組（伏谷義知先生）

一月三十一日（土）溝の口「すずや」

卒業してから二十年を過ぎ、ほとんどの者が各部署やグループをまとめる立場となっていた。気の置けない仲間が集まり、仕事の疲れを癒せたようで、大いに盛り上がった。

報告（馬場元司）

……

◇五十期Ｉ組（浜田敏明 先生）

二月二十八日（土）渋谷「葡萄屋」

大学四年生が多く、四月から社会人となり、バラバラになってしまうので、卒業前に一度、学生時代の思い出を語ろうと思い、集まりました。

報告（柳原麻樹）

……

◇五十期Ｇ組（松川誠二 先生）

三月十八日（木）生田「たぬき」

大学卒業前にみんなで集まろうと思い、突然ではありましたが、クラス会を開きましたが、少人数ではありましたが、大変盛り上がり、たのしいクラス会が開けました。

報告（里吉孝広）

……

◇五十二期Ｋ組（鈴木純行先生）

三月十九日（金）用賀「和民」

今回、卒業してから、初めてのクラス会となりましたが、それにしては、みんなそこまで変わることなく、いい大人になっている感じでした！今回十五人と数はそこまで多くは集まらなかったですが、楽しい会になりました。

五十二期のＫ組はふざけてばかりいて先生方からは評判がよくなかった?のですが、みんないい仲間です。次からは四十四人全員そろうように努力します。こいよ、みんな！

報告（福山貴士）

……

◇三十期Ｇ組（上脇正次 先生）

三月二十日（土）蒲田

初めての担任のクラスでした。皆、良い年になっていて、だれが先生かわからないほどでした。この日のために北海道から来てくれた人もいました。近況を語ったり、なつかしんだりとても楽しい一日でした。

報告（上脇正次）

……

◇六期

三月二十七日（土）平和島「照」

四十八年振りの顔も二人、みられた懐かしい楽しい一時を過ごせました。高校時代にタイムスリップ。皆六十六歳の酔っ払い高校生。時間も忘れ楽しい四時間でした。

報告（小林康二）

……

◇三十一期Ｃ組（宮　健二先生）

五月十六日（日）埼玉「美里ロイヤルＧＣ」

埼玉県美里ロイヤルＧＣにて第二回のゴルフコンペを開催しました。コンペも担任の宮先生の名をとり「三Ｃ宮杯」とし、年一回の開催を目指しています。当日は早朝からかなりの雨が降っていましたが、ゴルフ場が近くになるにつれ小降りとなりラウンド中は傘も差さずにプレーできました。急遽不参加となった人もいましたが、宮先生を含め参加者十名が珍プレー・好プレーに楽しく一日を過ごしました。結果は森君の優勝で幕を閉じ、連覇をねらった筆者は惜しくも涙を飲みました。また来年、第三回を開催するとともに、秋には温泉でクラス会、年明けには都内で新年会の計画もあり、卒業後二十数年たってもクラスの絆はしっかりと結ばれています。

報告（平澤正一）

……

◇三十四期Ｋ組（井上保宏先生）

五月二十二日（土）渋谷「レガット」

何年たっても変わらなく若い井上先生と、そろそろ年の我々のクラス会。今回はレストランで日頃食べる事のないような食事を食べながら、楽しい、ひとときをすごしました。

報告（外山朋矢）

……

◇三十五期Ｉ組（伏谷義知先生）

八月二十九日（日）九段「九段会館」

卒業後、二十年振りの再会となりました。当日は生憎、小雨交じりの天気となってしまいましたが、伏谷先生をはじめとし、旧友との再会が叶い非常に有意義な時間を過ごす事ができました。二次会も大いに盛り上がり、明日に繋がる“元気・勇気・やる気”のパワーを頂きました。

これを機会に今後も継続して行きます。

報告（吉野　忍）

会員だより　わの広場

私のお寺 ⑨

静岡県　祝融山・万松院
『お寺にアルプスの響き』

十九期F組　三浦信孝

写真：左隅が筆者（万松院本堂にて）

山の中腹に建つお寺は、みかん畑の山道を八百メートルも上ります。境内から海の輝きが見え、志太平野が眼下に広がっています。

昨年、縁があって駒大高校の卒業生と知り合いました。その卒業生は、吹奏楽部の後輩でした。その日は、コンクールで金賞を受賞した日でした。

昨年の暮れ駒澤大学吹奏楽部のコンサートに横浜に行きましたら、入り口の所で大勢の高校生が整列していました。その生徒が後輩だと知り驚きました。在学中は、吹奏楽部の人数も二十人程でした。

山のお寺ですから、大勢の参拝客が在るわけではなく、檀信徒の皆さんのほとんどが、農家ですので日曜日が在るようで、無いので法話の会を開催しても、私自ら山をくだるしかないのです。

たまたま、私が所属している焼津市のシティウインドオーケストラのコンサートが、ケーブルテレビで流れ、それを目にした檀信徒の方が、お寺でコンサートをという要望に開山忌（お寺を開かれた和尚様の命日）の法要の後、法話、そしてホルンだけのコンサートを開きました。法話も大変評判が良かったのです。ホルンだけでのコンサートもたくさんの拍手を頂き山にアルプスの音色が響きました。壇信徒の方から、「また聞かせて」との言葉に、お寺は法話だけではなく、檀信徒の皆さんが大勢来てくれる所から始まると、思うようになりました。方法は何であれ、お寺に来てくれなければ何も始まりません。

長い間、楽器を吹いていて良かったと思っています。

駒大高校生徒が、今や全国的に認められた金賞受賞は、私にとっても嬉しい事です。そして、蓼科の寮で合宿した日、数学の伊藤先生がエーデルワイスを歌ってくれた事が思い出されます。

野球部の思い出

二十三期E組　寺島　正弘

早いもので、母校を卒業して三十年があっという間に過ぎました。思い出されるのは、毎日々、野球の事ばかりでした。私共は本当に恵まれた環境の中で、小野監督を始め、神谷先生、並びに、伊藤先生、涌井先生のもと、伸々と甲子園に向けて、精進することが出来ました。卒業写真をみるたびに、百数名以上の人数が野球部に入部しましたが、実際に我々が三年を迎える時には、その数十一名と少ない人数になっていました。それ程辞める方々が多かった程、厳しかった事を今痛感しています。練習場も読売巨人軍のグランドや、成城にあるサッポロビールのグランド、大会前には、駒大の祖師ケ谷グランドと大変環境の良い条件で白球を追う事ができました。遠征も多く経験しました。埼玉の甲子園出場校とは連日試合も組み、東京に駒大高校の野球部ありと印象付けました。又山梨遠征では、相沢先生の母校、日川高校と又塩山工業、現巨人軍の監督の堀内氏の母校甲府商業とも対戦し、自信をつけ、千葉では館山高校のグランドを借りて合宿を組み、本当にいい環境と思い出を作ることができました。夏の暑い日には水を止められ、まったく水分を補給する事もできず、又冬の寒い雪降る中練習を強行、雨の中もユニホームが泥んこになるまで、鍛えられたものです。今考えると野球が好きなだけでは、到底できなかった事を色々と学びました。よく同期の桜という言葉を耳にしますが、何年経っても先輩はたのもしく、又後輩は可愛いく、会うたびに痛感します。今私達同期の誇りは、良き指導者に恵まれ、又掛替えのない先輩後輩と一緒に練習に励めた事です。第五十四回夏の甲子園大会東京予選を、準決勝で佼成学園に延長十一回一対〇で敗れはしたものの、最後に小野監督より、これからの人生の中で、今までやってきた練習の辛さ程肉体的なつらさは絶対無いから、つらい時に直面したら、三年間の汗を流して頑張った事を思い出せ、という言葉をいただきました。今振り返って見ても、そのような困難に直面しないのも、忍耐強く生きる柱を学生時代に育ててくれた事だと感謝しています。

先般後輩皆んなのお陰で、甲子園にて母校の校歌を唄う事ができたと同時に、自然とあふれる涙が出てきたのは、私だけではなかったことと思います。練習の〆には必ず校歌を唄って終了するというのが私達の慣習でした。卒業後何度となく、よく練習したグランドにも足を運んだものでした。卒業後は、大学に進学し、現在まで紆余曲折の末、今の職場である「ゆうぼうと」（東京簡易保険会館）にお世話になっております。今までに、朝内先生、弓道部の坪井先生、和田先生、柏崎先生と、色々な面で利用をしていただいております。平成十五年の十一月には、小野監督を囲み、伊藤先生、涌井先生出席の中、二十一期、二十二期、二十三期、二十四期、二十五期、皆様に集まって頂き、野球部のOB会を開く事もできました。

大変長くなりましたが、今後の駒澤大学高等学校の益々の発展と、文化・体育活動のご活躍並びに手前味噌ではありますが、野球部の夏の甲子園出場を祈願申し上げ筆をおろさせていただきます。

チャス

同窓生職場訪問 ①

一期　原　正男

平成十五年の晩秋の一日同窓会副会長の五期生真田治孝氏の職場を見学して来ました。東京オリンピックの為に作られ皆様にも高校バレー等でもお馴染みの代々木第一体育館の大改修工事が行われています。

その工事の設計施工の監理を行っているのが真田氏です。既に外壁の工事は終わりに近づき有名な吊り大屋根の塗装工事が始まるときでした。その大屋根を見せてもらえる事になり作業衣とヘルメットを付け真田氏の後に続きました。屋根迄の高さは、約三十メートル、ビルの十階の高さに相当します。

エレベーターは工事中の為使えないとの事、外壁に作られた狭い工事用の階段を登るのは大変でした。

六十七才になる真田氏は身軽にすいすいと登って行きますが一期生の私は息を切らせながら何とか付いて行きましたが彼の若さには感心しました。息もたえだえにやっと大屋根の縁に取り付き傾斜を滑らないように上り詰め頂上に達し明治神宮の森を前景にした新宿副都心の高層群を目の前にしたときは其の雄大な大パノラマにしばし言葉もなく眺め入ってしまいました。

工事関係の話もいろいろと聞きましたが大パノラマに心を奪われそれらはすっかり忘れて帰って来てしまいました。

平成十六年三月工事も終わり工事用のシートも取られ元の体育館の姿に戻ったのはNHKのニュースタイトルの背景に使われているので皆様もご存知のことと思います。

五期生がまだまだ元気に第一線で活躍されていることをお伝えしておきます。

平成十六年度　クラブ助成

同窓会では母校の部活動を支援するため、助成活動を行っております。

本年度は、校友会の各部に「製氷器」と吹奏楽部に「アルトクラリネット」を贈呈致しました。

今後の各部の活動と精進を期待しております。

◎校友会
製氷器

◎吹奏楽部
アルトクラリネット

永年勤続ご苦労様

◎四十年勤続

教諭　京瀧　隆司

「幸せ」

この四月に法人から、永年職務に精励され…と、勤続四十年の表彰を受けました。そして、同窓会からもすばらしい記念品とねぎらいの労をいただき、誠に有り難うございました。「幸せとは、苦しみがなくなることではなく、それを越えたときに味わうものであろう。」と、今日在るも皆様のお陰と感謝申し上げます。残りわずかですが「健康が全てではないが、しかし全ては健康からはじまる」ということで、健康第一で頑張って行きたいと思います。

（公民科）

教諭　山田　勲

私は、駒澤大学高等学校に四十年間、商業科、社会科、公民科教師として勤務し、来年の三月定年退職の日を迎えることになる。

毎日が綱渡りの連続のようで「明日のことは考えない。今日、今、全力投球」と自分に言い聞かせる日々だった。

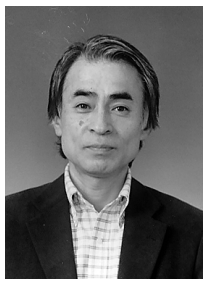
昭和三十九年四月より商業科の教師として勤務、一年生の担任、三年生の授業、簿記、珠算の検定試験等で多忙な日々であった。社会科の時は、政治・経済担当、公民科では、現代社会、政治・経済担当、日々テレビのニュース、新聞の政治・経済欄とのにらめっこであった。しかし、どんなに苦しい時でも、生徒の瞳が私の背を強く押してくれた。充実した教師生活を送れたことは、出会えた生徒一人ひとりのお陰と、感謝の気持ちでいっぱいである。

今後は、残りの日々を健康に留意して精一杯頑張っていきたく思っている。

最後に同窓会の益々の発展を心よりお祈り致します。

（公民科）

◎三十年勤続



教諭　日吉　明廣

「さささえられて」

人生の半分以上を、自分が選んだ仕事に従事してきたことへの感慨がある。“教員”とは何と素晴らしい仕事か、と思う。たくさんの生徒との出会い、そして別れ。その中で得た喜び、楽しみ。人間相手であるがゆえに、時には悩み、悔いを感ずることもあった。悲しいこともあった。それらは人間が相手であるからこそ得られたものであったと思う。

決して順風満帆であった訳ではない。この仕事は自分にはふさわしくないのではないか、と何度辞めることを考えただろうか。失敗し、落ち込むことも多かった。その都度、今まで接してきた生徒たちの顔が浮かぶ。楽しい思い出のあるクラスの一人一人の顔、それが、“教員”という世界に連れ戻してくれる。その繰り返しの三十年だったように思う。

私自身、三十年という年数そのものは特別、重視してはいない。無為に過ごしていても月日は自然と経過していくものである。要は何を為してきたのかであり、成長し続けているかである。自分なりに精一杯取り組んできたつもりではある。それをどう評価するかは今まで接してきた数多くの生徒たちが決めることであろう。彼ら(彼女ら)の脳裏に“私”という存在がどう記憶されているか、すべての評価は彼らにゆだねるほかない。

昔、情熱を感じられなくなったら潔く教員をやめる、と生徒に言ったことがある。未だ情熱を失ってはいない。ただ、三十年という時は身体には確実に影響を与え続ける。無理がきかなくなり、疲れやすくもなってしまった。往復四時間を辛く感じるようにもなってしまった。今はただ、その時が来たら邪魔者にならないうちに、静かに身を引き、輝かしい未来をもった若者に場を譲るのみと思っている。

（十九期・国語科）

よろしくお願い申し上げます

常勤講師　武本　蘭

早稲田大学文学部
同大学院教育学研究課修士課程修了

今年度から駒大高校に奉職することになり、早いもので一学期が過ぎてしまいました。慌ただしい毎日ですが、先生方や生徒たちに助けられ、充実した楽しい時を過ごさせていただいております。今は自分のことだけで精一杯ですが、皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。

（国語科）

常勤講師　石塚　恭子

青山学院大学米文学
立教大学大学院異文化コミュニケーション研究課修士課程修了

青山学院大学で米文学を学んだ後、公・私立計三高校で教壇に立つ機会に恵まれた。中でも米国内の在外教育施設での経験は、珍貴であろう。

二〇〇一年春に帰国し、立教大学院異文化コミュニケーション研究科に進学。今春修士号を取得し、駒大高校に奉職の機会を戴いた。

駒大高校が外へ大いに誇れることの一つとして、生徒の挨拶がある。毎朝、生徒の気持ちの良い挨拶で一日が始まることに感謝している。

（英語科）

非常勤講師　奈部　淑子

筑波大学大学院博士課程
文芸・言語研究科

（国語科）

◎二十年勤続

教諭　浜田　敏明

二十年の間楽しい事も悲しい事も沢山ありました。子供達が社会で困らないような知識と行動を身につけて欲しいという思いでいつも接してまいりましたが、空回りしたことも多かったと思います。色々教えてくれたのは他ならぬ生徒諸君でした。父兄の方々、諸先生方をはじめとする多くの方々にも多くの事を学ばせていただきました。どうもありがとうございました。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

（数学科）

教諭　貫井　洋

「勤続二十年にあたり」

この度は、勤続二十年に際し、同窓会の皆様から表彰していただき、更には結構な記念品を頂戴し、誠に有難うございました。

先日の総会後の懇親会では、同窓生の方々より、本校の創設期から曲折を経ながらも現状まで発展した貴重なお話を伺いました。こうした歴史と伝統を基としつつ、時代に即した学校づくりへと、今後とも微力ながら努力していきたいと思っています。

（英語科）

◎十年勤続

非常勤講師　長谷川　早苗

「駒大高校で家庭科を教えませんか?」と新羅先生よりお話しを頂いたのが昨日のようです。そして驚き・出合い・成長・充実の十年間でした。卒業生が訪ねてきてくれる時、当時の面影を残しながらも大人になっていることにうれしさと共に月日を感じます。少しでも家庭科で勉強したことが生かされていればと思っています。私が十年を迎えることが出来たのも諸先生方、すばらしい生徒達のお陰です。ありがとうございました。

（家庭科）

非常勤講師　田邊　麻友美

白百合女子大文学研究科
言語・文学専攻博士課程

（国語科）

非常勤講師　矢内　啓一郎

早稲田大学大学院文学研究科
日本文学専攻博士課程在学中

（国語科）

非常勤講師　上杉　和也

東京理科大理学専攻科
数学専攻

（数学科）

非常勤講師　小森　友莉

武蔵野音楽大音楽楽部
器楽学科ピアノ専攻在学中

（芸術科）

退職者

専任

山本　雅博（国語科・四年）

非常勤講師

永田　泰大（公民科・九年）
永友　美佳（芸術科・八年）
江川　優子（保健体育科・六年）
本橋　幸康（国語科・二年）
滝脇　修司（国語科・一年）
浅野　賢二（数学科・一年）
小林　美代子（国語科・六ヶ月）
酒井　茂幸（国語科・三ヶ月）
柚木　亜美（家庭科・三ヶ月）
大村　賢哉（芸術科・三ヶ月）

私の趣味⑫

「スカイダイビング」

教諭　内村征幸

「最高のスリルを味わいたい」と思ったのがきっかけでした。ジェットコースターよりも速くバンジージャンプよりも高い…スカイダイビング！単純明快な発想でした。しかも、どうせやるなら一人で自在に飛べるようになるまでやろうということでスクールに入ってしまいました。気合いだけは入っていました。

初日から気合いはふきとんでしまいました。現地に着くなり心の準備をする間もなく、いきなり飛ぶことになりました。スーツを着て、リュックを背負って、頭にヘルメット、目にゴーグル、耳に無線機、腕に高度計…いたって軽装備です。ヘリコプターに乗り込むまで、パラシュートを開く動作を何回も確認しました。（パラシュートが開けば、とりあえず生還できるので）ヘリコプターに乗って、いよいよ大空へ出発です。プロペラの回転する音が大きくなるにつれて、胸の高鳴りも大きくなっていきます。どんどん上空に飛んでいきます。どんどん不安になっていきます。「なんでこんなことやってんだろう。」心の中で呟きます。そうこうするうちに、高度四千メートルまできました。ドアを開けます。体半分、ヘリコプターの外に出します。下を向くと、家が米粒よりも小さく見えます。不安と緊張が最高潮に達します。「パラシュートどう開くんだっけ。」頭の中真っ白です。かけ声と共に大空に飛び込みます。もうどうにでもなれって心境です。時速二百キロの世界です。下から吹きつける風はすごいし、景色はぐるぐる回るし、何が何だかわけがわかりません。しかも、落下時間約五十秒の間に課題をこなさなければなりません。（スクールなので、課題をこなしていかないと卒業できない）何とか課題をこなし、パラシュートを開きます。ゆったりとした世界に入ります。はりつめていた緊張が解け、安心感に包まれます。風景を楽しみながらゆっくり降下する空中散歩です。五分程で地上に着きましたが、「最高のスリル」を味わえた満足感でいっぱいになりました。

その後、何回か飛んでいくうちに、落下中もあれこれ考えたり周りを見たりする余裕も生まれてきて、だんだん楽しくなっていきました。景色は素晴らしいし、風は気持ちいいし、何より「自由」を感じます。大空を自由に飛ぶ鳥もこんな感じなのかもしれません。スクールの卒業を境にやっていませんが、また飛びに行こうと思います。

（数学科）

■ 駒澤大学進学状況（過去２年間）

学部	卒業年度／学科コース	15年度 推薦	15年度 受験	14年度 推薦	14年度 受験
仏教	禅	7		3	
	仏教	10	1	12	
文	国文	14		15	1
	英米文	16		20	1
	地理文化	8		8	
	地理環境	7		7	
	歴史	12		15	
	社会	4		4	
	福祉	5		7	
	心理	5		5	
経済	経済A	37	1	36	1
	経済B	16		19	1
	商	30		30	2
法	法律A	43		46	
	法律B	11		10	
	政治	30	1	31	
経営	経営A	49		49	
	経営B	16		22	3
医療	医療放射線	7	1	7	
小計		327	4	346	9
短大	国文	10		2	1
	英文	3		1	1
	仏教		1		1
小計		13	1	3	3
合計		340	5	349	12
総計		345		361	

■ 進路別進学・就職状況

区分	15年度	14年度
駒澤大学	345	361
苫小牧駒澤大学	1	3
他大学	37	25
他短期大学	15	11
専門学校	41	24
就職	1	2
予備校・自宅浪人・未定	39	29
合計	479	455

■ その他の主な合格大学・短期大学（過去３年間浪人生含む）

電気通信大学	専修大学	関東学院大学
山形大学	東洋大学	杏林大学
都立科学技術大学	日本大学	近畿大学
芝浦工業大学	武蔵大学	亜細亜大学
東京家政大学	中央大学	北里大学
青山学院大学	日本体育大学	工学院大学
明治大学	学習院大学	嘉悦大学
東京電機大学	国学院大学	恵泉女学院大学
明治学院大学	東海大学	昭和女子大学
桜美林大学	武蔵野女子大学	横浜市立看護短大
成蹊大学	獨協大学	川崎市立看護短大
立教大学	上智大学	洗足学園短大
東京農協大学	玉川大学	宝仙学園短大
立正大学	順天堂大学	山野美容芸術短大
成城大学	日本女子体育大学	青山学院女子短大
東京理科大学	法政大学	明治大学短大
神奈川大学	大妻女子大学	

平成17年度生徒募集要綱

	推薦入試	一般入試
募集定員	男女240名（併願推薦20名含む）	男女240名
願書受付	1月19・20日	1月25日～2月5日
試験日	1月22日	2月10日
合格発表	1月23日（窓口で手渡し）10時	2月11日（掲示）10時
入学手続	1月24日まで（銀行振り込み）	2月14日（銀行振り込み）
二次募集	予定はありません	状況に応じて募集します
試験科目	作文・面接（本人のみ）	国語・数学・英語・面接（本人のみ）

推薦入試基準			一般入試　第一志望優先扱い基準		
3教科		9教科	3教科		9教科
10	かつ	34以上	9以上	かつ	27以上
11	かつ	32以上	得点に20点加点す。		
12以上	かつ	30以上			
①9教科中に1・2の評定がないこと。 ②3学年2楽器の学業成績による。			①9教科中に1の評定がないこと、かつ、3教科中に2の評定がないこと。 ②3学年2楽器の学業成績による。		
適用範囲	東京・神奈川・千葉・埼玉県の国・国公立中学校在籍者		適用範囲	国・国公立中学校在籍者	
清明学園中学・武蔵野東中学・サレジオ中学は適用範囲内とする。					

※併願推薦制度（国・公立）について
　条件　1．9教科評定合計36以上で9教科中に1・2・3を含まない。
　　2．入学金・施設費の入学手続金は、公立試験後期発表後の指定日に納入することになります。

※一般入試における単願制度について
　推薦入試基準と第一希望優先扱い基準の間に単願制度を設けました。
　詳しくは中学校の先生に相談してください。

母校「受験」優遇制度のお知らせ

受験生をお持ちの同窓生の方々で、母校に学んだ縁を大切にし、子弟妹を母校に学ばせたいとのお考えがありましたら、一定の基準はありますが優遇措置がありますので、同窓会事務局（高木）までお尋ね下さい。

学校見学会・説明会のご案内

学校見学会
● 9月以降の毎週土曜日　午後3時
会議室にて説明の後、校内をご案内します。

学校説明会
● 10月　9日（土）午後2時～
● 11月13日（土）午後2時～
体育館にて説明会の後、校内を自由にご見学下さい。

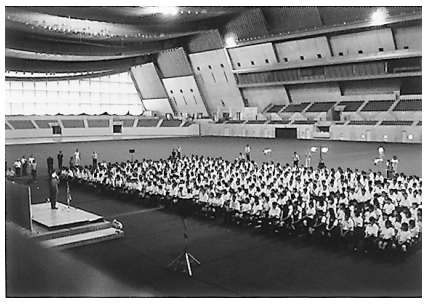
※駐車スペースがありませんので、お車でのご来校はご遠慮下さい。

林間学校に参加して

常勤講師　武本　蘭

私は今年初めて一年生の林間学校に参加しました。私自身の感想と、生徒の様子について報告したいと思います。

まず一日目。元気にバスに乗り込んだ生徒たちは、車内でもはしゃいだ様子で楽しく過ごしていました。横川のサービスエリアで名物「峠の釜めし」の昼食をとったあと、再びバスで開会式の行われる「Mウェーブ」に向かいました。このスタジアムは長野オリンピックのために建設され、現在ではコンサートにも使用されているという、大変立派なものです。



ここで団長（鈴木教頭）あいさつ、生徒代表による宣誓、そしてマジックショーと黒姫太鼓のパフォーマンスが行われ、生徒たちも林間学校に向けて気持ちを引きしめると同時に、期待感を大きくふくらませていました。

二日目は、戸隠森林植物園にて、毎年恒例のウォークラリーが行われました。涼しいさわやかな空気の中、生徒たちは俳句を作ったりスケッチをしたり、思い思いに楽しんでいました。口では「疲れた」と文句を言いながらも、自然に囲まれてリラックスできたのではないでしょうか。

三日目は、初の試みとして、コース別体験学習が行われました。ゴルフ、飯綱山登山、カヌー、パラグライダー、ラフティング、牧場体験、マウンテンバイク、一茶の句碑めぐり、そば打ち提灯づくりの各コースから、生徒が希望するものに参加することができます。

私はゴルフの引率に行かせていただきました。初めは十人程の班にわかれ、練習場でボールの打ち方を勉強します。各班にインストラクターがつくので、生徒一人一人に指導がゆきとどき、ホールに出る実力をつけることができます。午後からは班ごとにホールに出て、ゲームを行いました。生徒たちは、ゴルフ未経験者が多く、初めての体験に真剣に取り組んでいました。他のコースでも、自然の中での貴重な活動を充分に楽しんだようです。私も生徒と共に大いにはしゃいで、楽しい時間を過ごすことができました。

最終日は小布施において、班別自主研修が行われました。生徒たちは地図を頼りに街を散策します。中でも葛飾北斎の肉筆画を展示した「北斎館」や、地元出身の画家・中島千波の絵を展示した「おぶせミュージアム」は見ごたえがあり、生徒たちも興味深そうに見入っていました。また、有名な栗菓子のお土産を買うなど、自由な活動ができて生徒も喜んでいたようです。昼食には「栗おこわ膳」をいただきました。

この林間学校を通じて、生徒たちは大きく成長したと思います。例えば初日にはきちんとできなかった食事のあいさつが、最終日には先生に言われなくても自分達自身で注意してできるようになりました。また、様々な活動や共同生活を通じて、クラスの友達と結束を強め、引率の先生方ともよいコミュニケーションをとることができたのではないでしょうか。この経験は必ず、今後の高校生活に役立つにちがいありません。

（国語科）

校友会だより

『総務局・夏期合宿』
駒大高祭にむけて

三年A組　齋藤典明

まずは駒大高祭実行委員の役割の確認。これは例年とも各部所で役員が足りなかったりとの問題があったので今年も先がけて決めました。

次に駐車場の割り振り。駒大高校の駐車場は狭いため、毎年グランドをお借りして、体育科の先生方にはご迷惑をおかけしました。しかし、今年は、学校の隣に大きな駐車場ができたので、ある程度改善されるでしょう。

最後はチアリーディング部の写真撮影の取り締り強化。撮影は保護者のみと決め、それ以外の撮影はご遠慮頂くという形を取る方法です。

これらの事を取り入れ、より一層充実した駒大高祭にしたいと思いますので、皆様も是非とも足を運んでみて下さい。

（校友会会長）

去年、校友会が昔行っていた夏の合宿を復活させてから二回目の合宿が行なわれました。

日程は七月三十日～八月二日、静岡県田方郡戸田村戸田が今年の合宿先でした。

流石に一日中話し合いと言うのには無理があるので、近辺の散策や博物館の見学等も行い充実した四日間を送れたと思っています。

肝心の駒大高祭に向けての話し合いですが、次の様な題を中心にして話しを進めました。

一、一年生へ駒大高祭の仕事の簡単な説明。

二、駒大高祭の日程が平日になった事について。その場合の想定。

三、準備や機材注文などの日程確認。

四、去年の駒大高祭を振り返って、今年に改善又は新しく行わなければいけない事の確認とその具体案。

以上の題では四番目のものが話の中心になったので、一部を挙げたいと思います。

校友会活動報告

◇関東大会出場

○ソフトテニス部

団体

個人

三年K組　吉田正人

三年I組　澤田　学

二年A組　木虎　誠

二年I組　川田裕人

六月四日（金）～六日（日）

千葉県白子町サニーコート

○バレーボール部

六月四日（金）～六日（日）

神奈川県相模原市総合体育館

○体操競技部

個人

三年B組　久保田將弘

六月四日（金）～六日（日）

埼玉県熊谷市熊谷スポーツ文化公園彩の国くまがやドーム

○ゴルフ部

個人

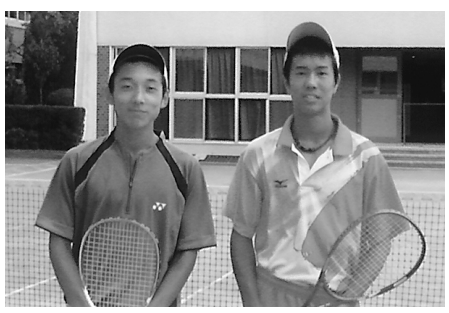
三年J組　内田文也

七月二十三日（金）・二十四日（土）

栃木県大田原市那須野原カントリークラブ

国民体育大会
出場にあたり

三年A組　丸木享範



（3A 丸木　・　1F 二見）

今年の東京は予選四位で少年男子としては二十一年連続の本大会出場になります。

今年の十月に国体が埼玉で行なわれるのですが、国体は名前の通り大規模でなにより価値のある大会であり、一年生である二見君は来年、再来年がまだありますが、三年生である私にとっては高校で最後の全国優勝のチャンスなので悔いの残らないよう全力で戦いたいと思います。

本大会に向けて課題はまだまだありますが、十月の大会で一勝でも多く勝てるよう残された時間で一生懸命練習し、駒大高生として頑張ります。

国民体育大会出場にあたり、国体の本大会に出場するためにはまず、東京都の代表に選ばれ関東ブロックの予選でリーグ四位以内で勝ち残らなければいけませんでした。

八転七起

「永遠の命」人間は、この世にオギャーと生まれてあの世からお迎えが来るまで、自然に年を重ねていく。この成り行きを知恵者は、「永遠の命」はどうしたら授かるのだろうと。渾沌とした中に、いろいろ伝承され、たくさんの物語が生まれた。今話題になっている映画もある。

人生は、初めはほんの小さな一歩から歩みだし、やがて大きな力強い足跡が残るまでがんばって、消えていくもの。

駒大高校同窓会は、創立五十五周年記念総会を来年迎え準備を着々と進めている。学びの三年間を通じて、友として同窓生として生まれた絆・縁はいつまでも続くもの。

母校はオアシス。永遠に。多忙な人生の中で、戻るべき原点は誰にも必要。寛げる原点に母校に遊びに。

追伸。高校野球に釘付け。八月二十二日。決勝戦をテレビで観戦。九回裏、ショートフライでゲームセット。十三対十の打撃戦。深紅の優勝旗が北の大地・北海道に渡る。実に楽しい野球観戦だった。このテレビに映っている高校が、兄弟校の苫小牧。よくやったと褒め称え、声を出して校歌を歌った。これに出あえた喜び。同門の誼でにわか応援ができたことがうれしい。苫小牧のみなさん、ありがとう。お疲れ様でした。（あらい）

編集局より

会員の皆様
投稿をお待ち
します